電子版
No. 9
2021/1/20

教文通信

発行所| 長野県教育文化会議
発行人　寺尾　真純

今号の内容

１．　家庭科教育研究会県との懇談会

教文通信アーカイブス

教文通信　No.1（電子版）
新型コロナウイルス感染症禍でのアンケート結果
教文通信　No.2（電子版）
ジェンダー平等の教育を考える総研資料
教文通信　No.3（電子版）
職場教研報告
教文通信　No.4（電子版）
上西充子さん（法政大学教授）講演会報告
教文通信　No.5（電子版）
松川高校・理科研究会・教文運営員会報告
教文通信　No.6（電子版）
「学びの『指標』（案）」討議資料
教文通信　No.7（電子版）
支部教研特集
教文通信　No.8（電子版）
支部教研特集

１．　家庭科教育研究会県との懇談会

県教委との懇談会報告

家庭科教育研究会　藤澤秋津

去る 10 月 23 日、コロナ再流行の兆しを感じる中、今年も県教委との懇談会が実現しました。家庭科教育研究会にとって、学校現場が抱える困難を直接県に伝えることができる、長年大切にしてきた貴重な機会です。

老朽化した施設設備の不具合によって増加している事故、刃物や火を扱う実習を 40 人規模で一人の教員が指導している危険性、夏には室温が連日 35℃に迫る調理室や被服室で熱源を使用した実習を行う学習環境、バランスを欠いた人事等、毎年改善をお願いしている事項に加え、今年はコロナ対応に関わる課題にも触れました。

コロナは、家庭科が長らく抱えてきた課題を露わにした印象があります。

まず、40 人での実習ができなくなりました。緊急的に学習指導員の先生の力を借りて半学級での実習を行った学校では、生徒一人一人に注意を払える安全な教育環境を初めて経験し、「これこそ本来の姿だ」と思いを新たにしました。

教文通信　№277（紙版）
「コロナ後の教育はどうあるべきか」
　勝野 正章さん
　　（東京大学教授）

教文通信　№278（紙版）
「資質・能力」論批判と教育評価のあり方について
　佐貫 浩さん
　　（法政大学名誉教授）
「教育は何を評価してきたのか」
　本田由紀さん（東京大学教授）講演会の報告

＊教文通信は、教文 HP の会員専用ページでご覧になれます。

また、緊急予算により、これまで叶わなかった衛生設備の買い替え等が実現した学校もありました。いずれも本来計画的に実現されるべき課題を、皮肉にもコロナが炙り出した格好でした。

しかし,一方でこうした緊急的な措置は、決してすべての学校に長期的に行き渡るものではありません。依然として学習活動の停滞や、見通せない将来など、深刻な状況を生みだしているのが現状です。

今年の懇談会は、長年訴え続けてきたお願いを肌感覚で伝えられるチャンスと感じつつ臨みました。すぐに明確な回答を得られるものではありませんが、学校現場の切迫感は十分に汲み取っていただきました。今後、少しずつでも確実に状況が改善していくよう、引き続き粘り強く活動してゆきたいと思います

最後に、この会の開催にあたり、事務局の先生方には設定から提言まで幅広く支えていただきました。この場を借りて心より感謝申し上げます。